

安全と環境を考えるニシオの広報誌

1994
Vol. 1
No. 7

安全くん

“寒さに負けず、ガンバロー”の巻

本年もよろしくお願い申し上げます。



新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

平素は、ご愛顧を賜り誠にありがとうございます。

皆様に可愛がられておりますこの『安全くん』もお蔭様で2年目、今回で第7号を迎える事ができました。

毎号多数の方よりご意見や励まし、あるいは現場で安全活動にご活用いただいている様子など、アンケート返信はがきを頂戴し、大いに感激しております。

今年も、より良い商品とご安心いただけるメンテナンスを心掛けながら、この『安全くん』を通じて皆様のご安全と職場環境のアップ、そして合理化・省力化に役立つご提案や情報をお届けしてまいります。

今後のご愛読の程、お願い申し上げます。

また、機械等のご調達の際は、何卒弊社にご用命を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、安全と健康そして繁栄の一年となりますことをお祈りいたしております。

平成6年 正月

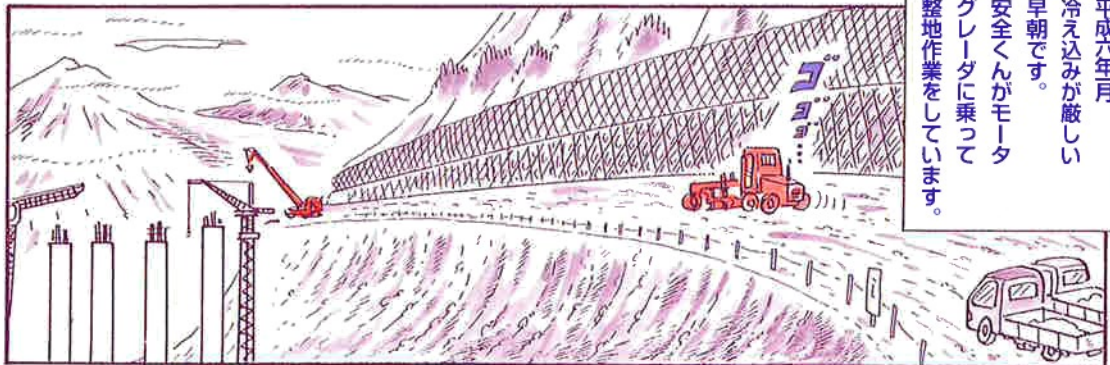
西尾レントール株式会社 役員・従業員一同

それ行け!! 安全くん

画 中村よしのぶ



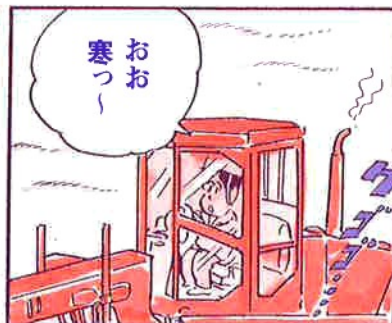
連載 その7 “寒さに負けずガンバリ”の巻



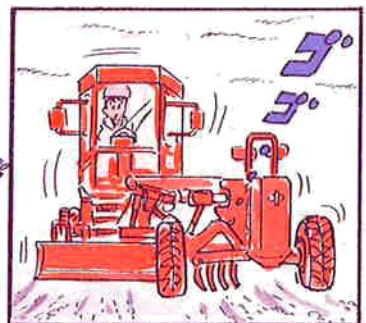
平成6年
月
冷え込みが厳しい
早朝です。
安全くんがモータ
グレーダに乗って
整地作業をしています。



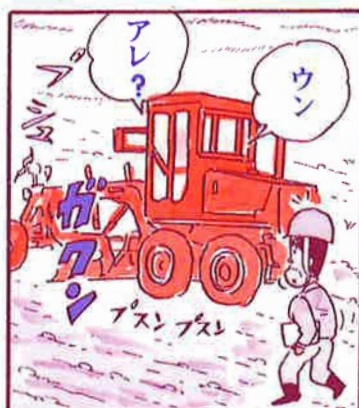
今朝は
冷える
な

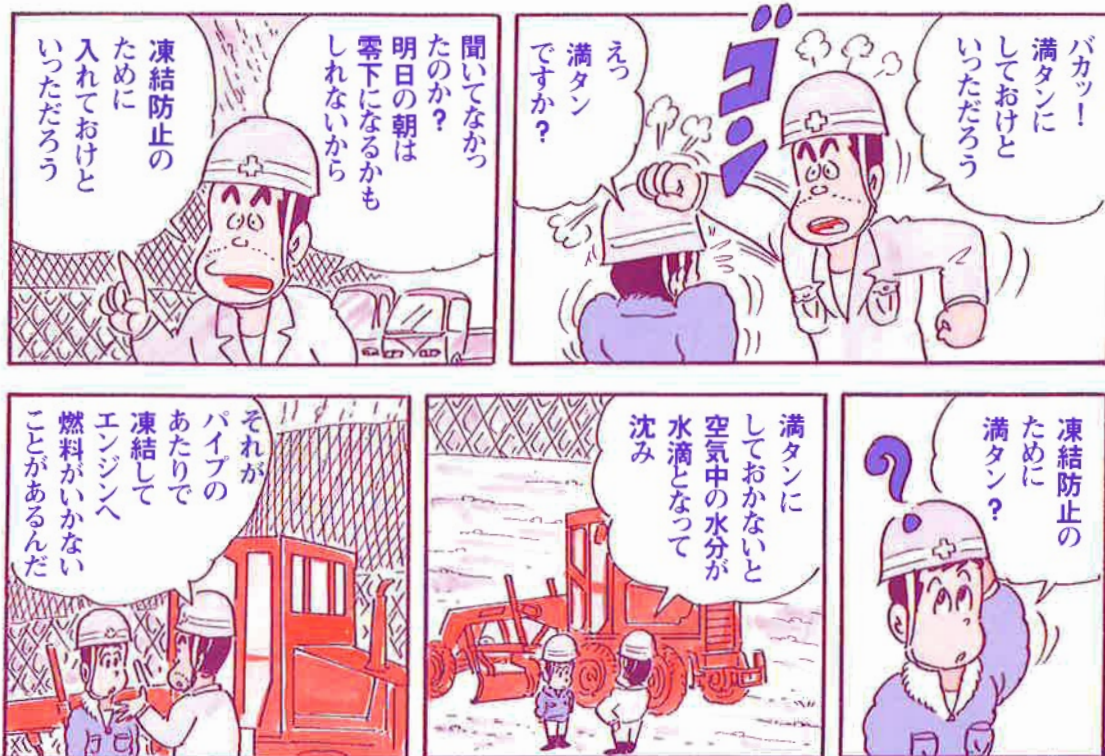


おお
寒っ



それ行け!! 安全くん





ここが重要!!

用語解説コーナー

冬場の安全管理／健康管理

安全管理

◆凍結・積雪への対策

- ・毎朝、作業前にパトロールを行い、危険箇所の早期発見を。(手すり、足場、その他現場のすみずみまで十分に点検する)
- ・安全設備、建設機械のチェック。異常が認められたときは直ちに補修を。

◆火災予防

- ・異常乾燥注意報の発令される日の多い冬場は、特に火災への注意を。(詰所、休憩室のストーブ、現場でのたき火、煙草の投げ捨てなど)
- ・火の元責任者の選任、喫煙所の設置、防火用水(砂)の準備、整理整頓。

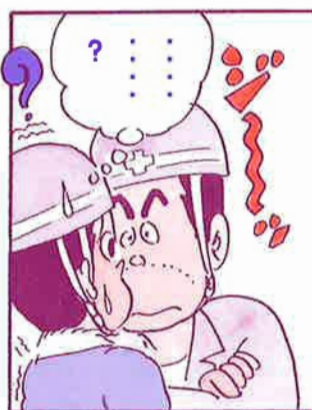
健康管理

◆休み明けの気分のゆるみ(正月ボケ)の解消

- ・《目の玉確認》、《口臭チェック》で作業員一人一人の健康状態の把握を。
- ・現場全体の安全集会、ミーティングの開催。

◆筋肉の硬直への対応

- ・ラジオ体操やサークルを作ってお互いの肩をたたきあうなどの運動が効果的。
- ・使い捨てカイロの配布。



ガンさんのワンポイントレッスン

機械も人も同じ。寒さ対策は万全に。
——車両系機械の冬季対策

■不凍液(LLC)オールシーズン

- 適切な処置をしないと冷却水が凍結し、エンジン・ラジエターを破損します。
- 不凍液の量は地域の最低気温やラジエターの容量により異なります。使用される地域で予想される最低気温より10℃位、低い温度で設定してください。

■燃料タンクの水抜き

- タンク内部の水分が氷結し、パイプをつまらせることがあります。
- 水抜きをこまめに。終業時に燃料タンクを満タンにし、空気が残らないようにするのも効果的です。

■エンジンオイル

- 冬季用のオイルを用意すること。始動時、エンジンが重く、かかりにくいことがあります。

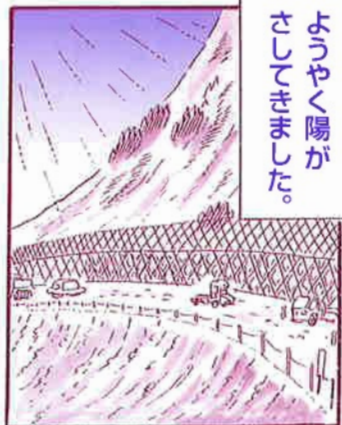
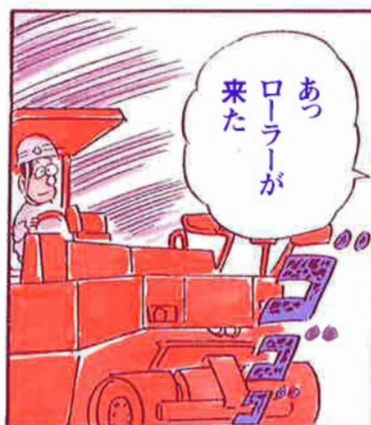
■作業終了時

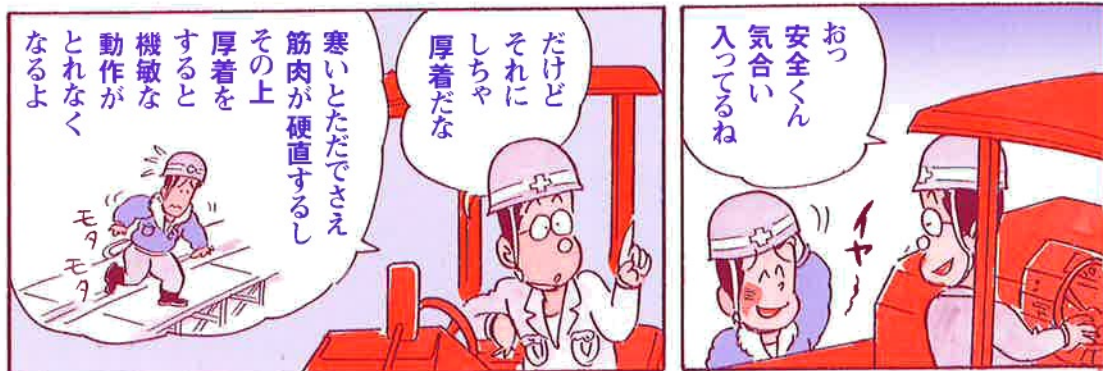
- 北風を避け、ラジエターを南向きにして格納するか、シートをかぶせておくこと。凍結が防げます。

■その他

- タイヤについてはタイヤチェーン、スノータイヤの用意。
- バッテリーもあがりやすいので、冬季用の容量の大きいものに。
- 散水車の水抜きを。(凍結によりポンプが割れるケースもあるため)
- コンプレッサーのエアタンクの水抜きも。
- 予熱系統の点検も忘れずに。







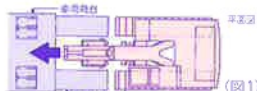
ここが重要!!

用語解説コーナー

ローラー積みおろしの心得

ローラーをトレーラーなどで移送する場合は、下記の事項に注意しましょう

1. 積込みの作業手順、方法について、関係作業者全員で打合わせをする。
2. 建設機械のクラッチ、ブレーキ等の点検をし、併せて使用機材の点検をする。
3. トレーサ等を積込み位置に停車させ、ブレーキを掛け、タイヤに固止めをする（この際地盤の水平に注意する）。
4. 登坂用具を確実に荷台にかけ、また、登坂用具のごう配を15度以下にする。
5. 車両荷台と建設機械の中心線及び登坂用具と履帯の中心線が一致するように配置する（図1）。
6. 合図にしたがって、低速で走行する。登坂用具の1m程度手前でいったん停止し、5.の項を再確認する。
7. 登坂用具を登る途中では、操向クラッチを切らず低速で一気に登る（操向クラッチを切る必要が起きた場合は、いったん地上に降りて方向を直す）。
8. 登坂用具を登りつめたところで、履帯の前端が浮いて荷台に着地するとき、積込み機械が横揺れを起こしやすいので、静かに着地するように注意して運転する。
9. トレーサ荷台の段差が大きい場合は、フットストール又は角材を使用して静かに走行する。
10. 荷台の所定位置で停止し、ブレーキを掛けロックする。
11. 油圧ショベル等を荷台上で旋回させる場合は、周囲の安全を確認し、旋回によって荷台が傾き、建設機械等が滑り落ちないように荷台に傾きを防止するための措置をする。
12. 大型ショベル系建設機械で、作業装置をはずして積込む場合は、カウンターウエイトもはずすこと。
13. 旋回ロックを掛け、エンジンを停止する。
14. 履帯の前後に固止めをし、建設機械をワイヤロープで固定する。このとき角の部分には当て物（ヤワラ）をする。
15. 積込み状態及び固定の状態が十分であるかを確認する。





それ行け!! 安全くん

